

平成15年度評議員会議事録

日 時：平成15年11月22日（土）18:00-20:00

場 所：日本獣医畜産大学動物医療センター

出席者：高橋三保子（新旧）、遠藤卓郎（旧）、金田良雅（新旧）、洲崎敏伸（新旧）、月井雄二（新旧）、芳賀信幸（新旧）、春本晃江（新旧）、見上一幸（旧）、三輪五十二（旧）、渡辺 彊（新旧）、今井 壮一（新）、遠藤浩（新）、沼田治（新）、藤島政博（新、次期大会長）、岩 楯 好 昭（HP）

欠席者：細谷浩史（旧）、田辺和裕（新）、彼谷邦光（新）、長澤秀行（新旧）、神原廣二（新旧）、竹内 勤（旧）

議 題：総会提出議題の検討

平成15年度総会議事録

報告事項

1. 庶務関係

見上庶務担当より、以下の報告があった。

イ. 本年度電子メール評議員会について

本年度電子メール評議員会での審議決定事項について、役員の変更、奨励賞受賞者の決定などの議題について4回の e-mail 評議員会が開催されたことが報告された。

ロ. 会員の異動

会員数（平成15年11月14日現在）について、下記の報告があった。

		(昨年報告数)
賛助会員	2団体	(3団体)
名誉会員	8名	(6名)
一般会員	151名	(145名)
学生通常会員	62名	(60名)
学生1年会員	3名	(5名)
合計	226名	(219名)

新入会 33名（内訳 賛助0団体、一般12名、学生18名、1年学生3名）

退会 26名（内訳 賛助1団体、一般8名、学生13名、1年学生4名）

ハ. 役員改選の結果について

次期役員について郵便による投票が行われ、10月14日に締切られた。10月17日に、学会事務局のある宮城教育大学において芳賀信幸評議員、渡辺 彊評議員、見上一幸庶務担当の3名で開票作業を行った。会則に従い、会長と協議の上、下記のとおり、会長推薦者1名を含む14名が評議員会に提案され、承認された。

有効投票総数 55 （以下得票順、敬称略）

会長 高橋三保子

次点：高木由臣

評議員：洲崎敏伸、春本晃江、芳賀信幸、今井壮一、月井雄二、藤島政博、金田良雅、沼田治、彼谷邦光、神原廣二、長澤秀行、遠藤浩、渡辺 彊、田辺和裕

2. 編集関係

洲崎編集委員長より、平成15年度原生動物学雑誌およびニュースレターの発行等について報告された。

3. 奨励賞選考結果報告

高橋三保子奨励賞選考委員会委員長から本年度奨励賞の選考経過について報告があり、本年度奨励賞は洲崎敏伸会員に決定したことが報告された。

4. インターナショナルコミッション報告

インターナショナルコミッショナーである渡辺良雄名誉会員から、第12回国際原生動物学会のための国際コミッショナー会議についての報告があった。同会議は、10月27日より30日まで、中国広州市で開催され、日本からは渡辺名誉会員と野沢義則前会長の両インターナショナルコミッショナーが出席された。次回のXII ICOP国際原生動物学会は、2005年7月11日から16日まで、広州市の Guangdong Hotel で行われる予定であることが報告された。

審議事項

1. 平成14年度会計決算報告および会計監査報告

三輪五十二会計担当より会計報告がなされたのち、沼田治監事より監査報告があり、承認された。

2. 平成15年度中間報告

三輪五十二会計担当より順調に執行されている旨の中間報告がなされ、承認された。

3. 平成16年度活動計画

審議に先立ち、高橋三保子新会長より、次期役員について、庶務担当を月井雄二、会計担当を今井壮一、編集担当を洲崎敏伸、監事を遠藤卓郎および三輪五十二、の各会員にお願いする旨の報告があった。

イ. 事業計画

高橋三保子会長より次期事業の方針および計画について述べられた。内容は、原生動物学雑誌の発行を年2回とすること、高校生への啓発的な活動も引き続き実施することとし、資金獲得のために科研費

など申請を行いたいこと、原生動物に関する生物生息調査についても積極的に取組みたい旨、報告された。

ロ．編集方針

洲崎敏伸編集委員長より、次期編集委員会委員の紹介の後、平成15年度原生動物学雑誌およびニュースレターの発行等について方針が述べられた。次期編集委員は、洲崎敏伸（編集長）春本晃江（副編集長、原生動物学雑誌編集担当）、石田正樹（ニュースレター編集担当）、岩楯好昭（ホームページ担当）、今井壮一、見上一幸、彼谷邦光、高橋三保子（会長）、月井雄二（庶務）である。

ハ．平成16年度予算案について

来年度は役員の交代が行われるが、新予算案は旧役員により検討されることから現会計担当である三輪五十二評議員より会計報告がなされ、承認された。

4．会賞等について

高橋三保子会長より、従来の日本原生動物学会奨励賞は設置された当時の状況から鑑みて現状にはそぐわない面があること、真に若い研究者の奨励をどうするか、昨年来評議員会でも検討した結果として、次のような提案があった。これまでの奨励賞を日本原生動物学会賞と名称を変更し、新たに若い研究者のための賞（日本原生動物学会奨励賞）を新設する。「奨励賞に関する内規」を廃止し、新たな「学会賞等に関する内規」（案）が提案され、承認された。

学会賞等に関する内規

学会員の研究活性化のため、日本原生動物学会賞および日本原生動物学会奨励賞授賞制度をおく。

1. 学会賞（The Award of the Japan Society of Protozoology）は、中堅の研究者のこれまでの業績を評価し、更なる発展を期待するものである。
2. 奨励賞（The Encouragement Award for Young Protozoologists）は、若手の会員（8月末日で満35歳以下）の今後の飛躍を奨励するものである。
3. 学会賞候補者は自薦でなく会員からの推薦とする。推薦者には当該研究の現・元指導者でないことが望ましい。
4. 奨励賞候補者は会員からの推薦の他、自薦も可とする。
5. 学会賞候補者として推薦されたものは、必要書類（履歴書・研究業績リスト・会員歴・主要論文別刷5編）各3部を推薦者に提出する。
6. 奨励賞候補者として推薦されたものは、必要書類（履歴書・本学会での発表リスト・会員歴・論文別刷等参考となるもの）各3部を推薦者に提出す

る。

7. 推薦者は毎年8月末日までに申請書類（推薦理由書および候補者からの必要書類各3部）を会長あてに送付する。
8. 評議員会において互選により学会賞等審査委員3名および選考委員長1名（いずれも任期3年）を選び、審査を行い、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。

付則

従来の「日本原生動物学会奨励賞」については、英文「The Award of the Japan Society of Protozoology」をそのまま同じとして、和文の名称を「日本原生動物学会賞」に代えて使用することとする。

平成15年11月23日

5．新規名誉会員に関する内規の改訂について

従来、慣行とされていた「大会参加費を名誉会員からは不徴集」を、「名誉会員推薦の内規」の中に明記する旨の提案がなされ、承認された。

名誉会員推薦の内規

平成5年8月

平成15年11月改訂

日本原生動物学会会則第四条の規定に従い、下記のとおり評議員会における名誉会員選考内規を定める。

1. 名誉会員は本学会の発展（*）と原生動物学の進歩に著しい功績のあった正会員で会員歴20年以上、年齢70歳以上であることを原則とする。但し、特に顕著な功績者は会員歴、年齢を問わない。
2. 外国国籍を有し、学術上の功績顕著で本会に特に功績のあったもの。
3. 名誉会員は年会費および大会費を免除され、会誌の無料配布を受ける。
4. 名誉会員候補者は評議員によって推薦され、推薦状、候補者の略歴および業績目録を会長に提出し、評議員会で決定する。

* 申し合わせ事項

- ・ 3期（9年間）以上評議員を務めた者
- ・ 会長経験者

6．次々期（第38回）大会長と開催地

第38回大会を帯広畜産大学（長澤秀行大会長）が予定されていることが報告され、承認された。

奨励賞選考経過

本年度の奨励賞には、1件の推薦（応募）があっ

た。推薦されたのは洲崎敏伸会員（神戸大学）である。奨励賞のあり方等については、選考時点ではまだ結論が出ておらず、推薦が1件であるため、その業績が日本原生動物学会奨励賞に相応しいかどうかの可否を慎重に審査した。洲崎会員は、ユージェナ・タイヨウチュウなどの細胞運動機構を解析し、原生動物の多様でユニークな運動系の解析で成果を挙げ国際的にも活躍しており、奨励賞候補者に値すると評価され、その旨評議員会に報告した。評議員会では、洲崎会員が現評議員であることから、本人退席のもとで議論され、総会で報告したごとく決定した。

平成14年度 日本原生動物学会会計決算報告

1. 収入の部		
科目	予算額	決算額
前年度繰越金	1,100,000	1,400,048
学会費	1,075,000	799,000
賛助会費	50,000	0
寄付	0	6,000
学会誌別刷代	0	37,065
利子	500	194
計	2,225,500	2,242,307

2. 支出の部		
科目	予算額	決算額
学会誌印刷代(第35巻)	500,000	463,050
学会誌郵送代	60,000	43,870
編集諸経費・謝金	60,000	70,580
ニューズレター印刷代	50,000	70,560
ニューズレター編集諸経費	20,000	4,431
会計諸経費・謝金	40,000	40,000
庶務諸経費・謝金	30,000	30,000
大会補助費	200,000	200,000
奨励賞副賞費	100,000	100,000
通信費	20,000	1,890
評議員会費	20,000	32,284
談話会費	0	27,833
振替手数料	7,000	320
その他	0	573
次年度繰越金	1,107,000	1,156,916
計	2,225,500	2,242,307

平成14年度 日本原生動物学会国際交流基金決算報告

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,453,851
利子	838
寄付(樋渡宏一)	250,000
計	1,704,689

2. 支出の部	
外国人招待者謝金	250,000
次年度繰越金	1,454,689
計	1,704,689

平成14年度 日本原生動物学会基金決算報告

定額預金	1,300,000
普通預金	8,947
計	1,308,947

平成15年度 日本原生動物学会会計予算案

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,100,000
学会費(6500×151+2500×63)	1,139,000
賛助会費	20,000
利子	100
計	2,259,100

2. 支出の部	
学会誌印刷代(2号分)	500,000
学会誌郵送代	60,000
編集諸経費・謝金	60,000
ニューズレター印刷代	50,000
ニューズレター編集経費・謝金	20,000
会計諸経費・謝金	40,000
庶務諸経費・謝金	30,000
大会補助費	200,000
奨励賞副賞費	100,000
若手の会助成金	20,000
評議員会費	20,000
通信費	5,000
振替手数料	7,000
次年度繰越金	1,147,100
計	2,259,100

平成16年度 日本原生動物学会国際交流基金予算案

1. 収入の部	
前年度繰越金(定額預金)	1,000,000
前年度繰越金(普通預金)	764,711
寄付	250,000
利子	100
計	2,014,811

2. 支出の部	
外国人招待者謝金	250,000
次年度繰越金	1,764,811
計	2,014,811

第1回大会以来の開催地及び大会長

	開催地	開催年度	大会長
第1回	小平市	昭和42年	藤田 溥吉
第2回	吹田市	昭和43年	猪木 正三
第3回	広島市	昭和44年	尾崎 佳正
第4回	東京都	昭和45年	松林 久吉
第5回	徳島市	昭和46年	尾崎 文雄
第6回	仙台市	昭和47年	樋渡 宏一
第7回	奈良市	昭和48年	稲葉 文枝
第8回	東京都	昭和49年	石井 圭一
第9回	大阪市	昭和50年	高田 季久
第10回	東京都	昭和51年	盛下 勇
第11回	岐阜市	昭和52年	野澤 義則
第12回	横浜市	昭和53年	斎藤 実
第13回	吹田市	昭和54年	中林 敏夫
第14回	つくば市	昭和55年	渡辺 良雄
第15回	広島市	昭和56年	重中 義信
第16回	東京都	昭和57年	石井 俊雄
第17回	津市	昭和58年	安達 六郎
第18回	東京都	昭和59年	浅見 敬三
第19回	大分県	昭和60年	山高 里盛
第20回	東京都	昭和61年	小山 力
第21回	山口市	昭和62年	星出 一巳
第22回	つくば市	昭和63年	渡辺 良雄
第8回国際原生動物学会			
第23回	つくば市	平成元年	樋渡 宏一
第24回	長崎市	平成2年	神原 廣二
第25回	伊勢原市	平成3年	金田 良雅
第26回	奈良市	平成4年	菅沼 美子
第27回	石巻市	平成5年	樋渡 宏一
第28回	帯広市	平成6年	鈴木 直義
第29回	小金井市	平成7年	鶴原 喬
第30回	東広島市	平成8年	細谷 浩史
第31回	水戸市	平成9年	三輪 五十二
第32回	岐阜市	平成10年	野澤 義則
第33回	仙台市	平成11年	渡辺 彊
第34回	金沢市	平成12年	遠藤 浩
第35回	神戸市	平成13年	洲崎 敏伸
第36回	高知市	平成14年	松岡 達臣
第37回	東京都	平成15年	今井 壮一

日本原生動物学会賞受賞者名

1991年	沼田 治 (筑波大学)
	テトラヒメナの多機能タンパク質の研究
1992年	田辺和祐 (大阪工業大学)
	マラリア原虫の寄生に関する分子生物学的研究
1993年	彼谷邦光 (国立環境研究所)
	環境適応における脂質分子の役割
1994年	今井壮一 (日本獣医畜産大学)
	ルーメン内繊毛虫の分類学的研究
1995年	見上一幸 (宮城教育大学)
	ゾウリムシの二核性と核分化の研究
1996年	藤島政博 (山口大学)
	ゾウリムシとホロスボラの共生における宿主-共生生物間相互作用
1997年	(受賞者なし)
1998年	芳賀信幸 (石巻専修大学)
	イマチュリン:未熟期の分子機構
1999年	広野雅文 (東京大学)
	クラミドモナスの非保存的アクチン
2000年	松岡達臣 (高知大学)
	繊毛虫ブレファリスマのキノン光センサーと光シグナリング
2001年	長澤秀行 (帯広畜産大学)
	トキソプラズマ感染に対する宿主免疫システム
2002年	春本晃江 (奈良女子大学)
	繊毛虫における細胞間相互作用
2003年	洲崎敏伸 (神戸大学)
	ユーグレナの細胞体変形運動